

川崎市文化芸術振興条例（平成17年4月1日施行） 前文

川崎市は、歴史的には東海道や大山街道などの街道と宿場、川崎大師の参詣などにおける人の往来と営みの中でその文化を育んできた。工業都市へと発展した近代では、就労の場を求めて多くの人が集まり、現代では国際化の進展により様々な外国人市民が集う都市として多彩な文化の集積地となっており、多様性を受け入れ、育ててきた歴史がその文化の基底にある。

地理的にも、多摩川に沿って東京湾から細長く伸びる地形により、海に臨む景観から、稲毛川崎二ヶ領用水沿いの水潤む光景、そして里山の緑の重なる風景に至るまで、変化に富んだ多様な様相を呈し、文化の一面を形作っている。

こうした歴史と風土が織り成す人々の営みの中で、川崎市の多様な文化は育ち、芸術が芽生えたのであるが、古来、文化芸術は、人の心に潤いと安らぎを与え、感性を豊かにし、生きる喜びをもたらしてきた。また、文化芸術は、人の発想や創造力を豊かにし、共感する心を育み、相互理解を深め、明日を担う子どもたちが健やかに成長する土壌をつくり、高齢者の心のよりどころとなってきた。更に、災害時の困難を乗り越える大きな力となっているだけでなく、都市生活を変革する力となり、都市の個性を表現し、生き生きとした経済活動の基盤をつくる原動力ともなっている。

このように文化芸術は、今日、市民が人間らしく豊かに暮らすために不可欠のものであり、世界平和の礎を築き、都市生活の質を高める重要な役割を担うとともに、創造的な市民や企業を育て、持続的に発展する都市をつくり出す源となるものである。

ここに、川崎市は、これまで培われてきた文化芸術を継承し、発展させ、新たな文化芸術の創造の促進を図ることにより、個性と魅力が輝き、市民が生き生きと心豊かに暮らせるまちづくりを進める。

館固有の設置目的

新たな博物館、美術館は、川崎ゆかりの文化財の保存と活用を図り、川崎の歴史と文化についての認識を深め、広める機会を市民に提供するとともに、併せてそれらから得られる知識・情報などの質を高め、発展させることで川崎の現在、そして未来を想像する場も提供する。また、川崎ゆかりの芸術家や芸術作品を市民と共有するとともに、国内外の優れた文化芸術や新たな表現手法の文化芸術に市民が接する機会を提供することにより、市民の文化的生活と都市生活の質の向上を推進する。

さらに、公の文化芸術施設として、川崎ゆかりの歴史文化資産や、地域で育まれてきた多様で特色のある文化芸術資源も含め、文化芸術を市民が自ら体感・体験し、学び・活動・参加できる場であるとともに、創造できる場とする。また、**地域の文化芸術の振興や市民の創造的な活動の支援について中心的役割を担い**、持続可能な都市川崎の発展に寄与する。

基本的な理念

1 川崎のアイデンティティ（個性）の確立・発信とシビックプライド（誇り）の醸成

川崎市は、近世には街道筋を中心とした発展や、明治期から近代化が進み、戦後の高度経済成長を経て先端産業や研究開発機関が集積するなど、時代の変遷とともに大きな変貌を遂げ、現在も進化し続けている。都市川崎の歴史と文化が生みだしてきた歴史文化資産に加え、近代化の過程で生じた**環境問題など負の側面**もまた財産であることから、時代の変遷とともに変貌する**都市川崎の現在を記録**し、未来へと引き継いでいく。また、市民ミュージアムが所蔵してきたコレクション、本市にゆかりのある文化芸術を継承するとともに、これまでの文化芸術の枠を超えるような表現手法などに対応し、市民が多彩な文化芸術に触れることで、その素晴らしさを理解し受容する広い視野や新たな文化を創造しうる力を育み、社会の文化的感性を向上させる。これらを通じて、本市の**アイデンティティ**を確立し、その実現に向けて、都市としての個性を発信するとともに、未来を担う若い世代の支えとなり、高齢者の心のよりどころとなる「我が街・川崎」への愛着とシビックプライドの醸成を図る。

2 文化芸術を通して誰もが生き生きと心豊かに暮らせる**持続可能な社会**への貢献

川崎の特徴でもある多様な世代・人種・国籍の人々をはじめ、川崎と縁のある全ての人々が、自らの軌跡（バイオグラフィ）を綴り、大切な思いなどを発見することができる「人がつながる場」の役割を担う。また、文化芸術が持つ力が人々の感性や創造性を育み、新たなまちづくりの原動力となり得ることから、文化芸術の視点で自然環境、人々の暮らしや歴史などを見つめなおし、**多様性を認め、社会的な孤立を招かない**よう、障害の有無等に関わらず全ての市民が文化芸術活動に取り組むことができ、**文化芸術に親しみ、楽しめる環境**が整っているなど、誰もが文化芸術に触れ、将来にわたり生き生きと心豊かに暮らせるまちづくりを推進する。

めざす姿、独自の姿勢

1 市民文化の発展や向上に貢献する施設

川崎市の多様な歴史文化資産、多彩な文化芸術資源である資料・作品等を包括的に保存管理し、提供・活用することや、国内外の多彩な文化美術に触れる機会を提供することのほか、その魅力を発信することで、未来へとつながる新たな文化の創造・発展を促す拠点として、市内の文化施設などと積極的に連携し、都市イメージの向上を図るとともに、市民が都市川崎に誇りと愛着がもてるよう、未来を見据えつつ、多彩な人々の営みや市内各地の多様な地域性を再発見・再評価できるように、現在の川崎など現代を中心とした様々な資料を次の世代に継承していく。また、それらを生み出した様々な人々や地域との交流を通じて、市民などが川崎の文化芸術資源や活動を学ぶ機会を創出することにより、市内の文化芸術活動をより一層振興する。

2 人と人、時代と時代がつながる場を創造し続ける施設

市民をはじめ、あらゆる人に開かれ、誰もが気軽に文化芸術に触れ、参加することができる施設として、人と人がつながる場を提供して相互交流を促進することにより、コミュニティの形成と活性化を図る。また、人々の生活や文化を主軸としながら、市民が現在の生活、文化、産業、社会等を知り、その諸課題の解決に向けて取り組めるよう、「新しい時代」を見据え、現在を起点に過去へ遡り、時代と時代をつなげるとともに、将来の川崎のあり方を創造する施設をめざす。

3 次代の社会を担う子どもや若者を育む施設

次代の社会を担う子どもたちや若者のために、学校教育と密接に連携しながら、彼らに関心をもつテーマなどを多く扱うとともに、文化活動や創作活動等への支援を実施することにより、彼らが本市の歴史・文化を学び、文化芸術が有する創造性と**多様性**を体感できる施設をめざす。これにより、将来を担うために必要な力となる本市のアイデンティティへの理解や郷土川崎への愛着を醸成するとともに、創造力や表現力の向上に寄与し、文化芸術への関心を高め、また、若手芸術家及び川崎ゆかりの芸術家等の育成・支援を通じ、市民に親しまれる川崎発の文化芸術の伝承と創造の発信拠点として、市民の文化芸術活動の活性化とすそ野の拡大を図り、誰もが文化芸術に触れることができるまちづくりに寄与する。

4 市民とともに、時代とともに成長する施設

市民や施設に係る人たちなどと連携・協働することで、世代をつなぐプラットフォームとなり、知識や技術、経験等を次世代に継承し、時代を橋渡しする役割を担う。また、単に資料、作品を保管して展示するのみではなく、時代や社会環境の変遷による作品や表現手法、価値観等の変化に呼応しながら柔軟な活動を行うなど、時代とともに成長・成熟することにより、**多様性**と**社会的包摂**が進んだ市民に永く愛される持続可能な施設をめざす。

※ …あり方検討部会における各委員の発言内容から抽出したキーワード